



国登録有形文化財 旧一志波瀬郵便局

波瀬川の西側、波瀬出張所や旧波瀬小学校など公共施設が立ち並ぶ中に、旧一志波瀬郵便局があります。昭和6年、この地域での電信電話の本格開始に伴って、当時の波瀬村役場近くにあった個人の住宅敷地の南東に建築されました。

建物は寄棟屋根の木造平屋建てで、外壁は主にペンキ塗りの下見板張りです。玄関の正面には面格子付きガラス窓と小台(小さな机)が、左右には自在扉が設けられています。玄関上部の切妻屋根についた棟飾りや破風板、上げ下げできるガラス窓が西洋風建築の印象を与えます。

玄関を入ると、土間からカウンター越しに執務室が見えます。土間に面して右に電話室、局長室(応接室)があり、それぞれの床は板張りになっています。執務室の奥には畳敷きの宿直室、その隣には電話交換室などが残っています。



現在の様子

この郵便局舎は、昭和初期の地方にお

ける郵便局舎建築を知る上で貴重な建物として、令和元年9月に国の有形文化財に登録されました。この建物は40年以上郵便局として使われていましたが、隣に新しい局舎が建設されたことに伴い、昭和47年、郵便局としての役目を終わりました。

長い間空き家となっていました。平成29年10月から、郵便局舎の面影をほぼそのままに、カフェとして生まれ変わりました。また、一時期撤去されていた円柱の旧式ポストも、元の玄関前に飾られています。日本の建物は木造建築が多く、古くなると維持が難しくなりますが、ただ残すだけではなく、この建物のように利用することでその価値を後世に伝えていくことができます。

津市内では、これまで12カ所21件の建物が国の有形文化財として登録されていましたが、令和3年度に国の文化審議会から新たに4カ所7件の登録の答申がありました。

「昭和レトロブーム」で古い文化が見直される今、近代建築の和と洋が融合した建物を楽しんでみてはいかがでしょうか。



昭和6年の旧一志波瀬郵便局

